

# あんだんて通信



ジメジメした日の続く今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？ 梅雨が明けたらいいよ真夏、アンダンテ21の活動も盛りだくさんの季節になります！

## 活動報告



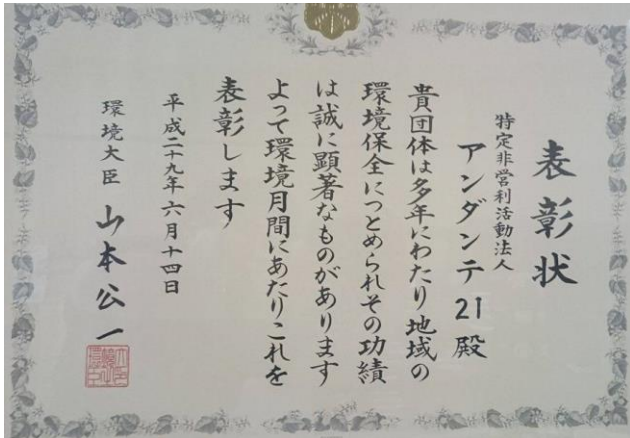
### 環境学習の実施

(協働と次世代育成をめざした益田市水環境保全プロジェクト)

益田圏域の小学校(安田小学校、吉田小学校など)の総合的な学習の時間や、高校の授業時間を用いて、地域の自然環境についての講座を実施しています。海岸や川などのフィールドに出て、水質調査や生き物調査を自分たちの手で行うことにより、地域の環境のすばらしさや問題点を発見してくれることを願います。

### 海の命をいただく会 (交流事業)

6月18日、飯浦漁村センターにおいて、「海の命をいただく会2017」を開催しました。会員と一般参加者計30名で高級な海の幸を調理し、お造り、海鮮BBQ、天ぷらなどのフルコースを堪能しました。また、参加者の子供たちは、会場前の海で魚釣りをしたりタコを捕まえたりして、とった獲物をその場で調理、「海の命をいただく」体験をしました。



### アンダンテ21が環境大臣表彰を拝受しました。

この度、アンダンテ21が「地域環境保全功労者」として山本公一環境大臣より表彰状を授与されました。

多年にわたり高津川流域の自然環境に関する保全・調査・啓発活動の功績が認められ、この大変名誉ある賞を頂くことが出来ました。

これもひとえに、長年にわたって尽力されてきた会員の皆様、そして活動を支えていただいた多くの皆様のおかげです。

また、この表彰を機によりアンダンテ21の活動を認知して頂き、活動の幅を拡げていければ幸いです。

### 就任のごあいさつ 理事長 渡邊勝美

2017年4月22日のNPO法人アンダンテ21の通常総会において理事長に就任いたしました渡邊勝美です。

アンダンテ21は1997年に街づくりグループとして出発し、2003年にNPO法人となりました。高津川を生かした地域づくりを掲げて活動を開始し、これまでの間に、地域ワークショップやどんぐりの森づくり・川ガキ講座・ガサガサ体験・ハマグリ・ハマグリ貝アート展・図鑑作成・益田川再生など様々な活動を行ってまいりましたが、これらに貫くキーワードは自然・環境・学習・教育です。

任意団体として発足以来20年、私たちの特徴と強みは「環境と教育」であり、これに関する様々な経験やコンテンツを蓄積してまいりました。これらに関するオファーも年々増え続けています。環境と教育に関する様々なスキルやノウハウをよりシェイプアップして地域に提供することが、アンダンテ21結成30年目へ向かうこれからの10年間の活動の大きな柱となります。

一方、当会の基本的な活動スタイルは、個々の会員がやりたいことや興味を持ったテーマを掲げて周囲に参加をもとめる「このゆびとまれ」方式です。会員の好奇心や情熱が当会の大事な要素であり、活動の原動力です。

また、これなくしては発展もないものと信じます。従来の活動枠に囚われない自由な発想での提起を求めます。理事長としての私の使命は、NPO法人アンダンテ21の事務局や会員活動を支える財政基盤の構築であり、最大限の努力をしておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 行事予定

### ～大人も子供もカッパになる夏休み～「川ガキ講座2017」

日時：7月30日(日) 9:00-15:30

会場：匹見萩原集会所付近 参加料：大人5000円 子供(3才以上)3000円(食事代含)

今年も「川ガキ講座」の季節になりました。今年は1日コースのみの開講となりますが、プログラムは川流れやごり突き、さらに溪流釣り体験等も加わってパワーアップ！地元食材やたき火を使った料理もご賞味いただけます。詳しくはHPもご覧ください。

### ～津田海岸ふれあいデー～「海ガキ講座2017」

日時：8月5日(土) 8:30-12:00 ※スタッフ日当あり

会場：津田海岸(津田駅に駐車可) 参加料：大人1000円(同伴は除く)、子ども(小学生以上)500円

「川ガキ講座」の裏で昨年からはっきりとスタートした「海ガキ講座」。なんとシーカヤックの体験が格安で出来るイベントとなっております。(その代わりにみんなで海岸清掃にご協力ください。)

もちろん、会員の方、大人の方も参加OKです。カヤックに興味のある方はまたとない機会ですよ！

### 東原遺跡と自然観察会

日時：8月3日(木) 8:30-13:00

会場：中須東原遺跡～中須海岸(市民学習センター集合) 参加料：200円

益田市文化財課とのコラボで、遺跡見学とその前の海での自然観察会を行います。海岸では、ゴミの調査、貝がら拾い、ハマグリ稚貝採取の見学(風なら)をしようと思います。自由研究に如何ですか？詳しくは、益田市教育委員会文化財課までお問い合わせください。

### 高津川流域環境教育研修会

日時：8月7日(月) 9:00-16:00

会場：吉賀町役場柿木庁舎 対象：益田圏域の小中学校教員、公民館職員、他教育関係者

高津川流域での環境教育について、アンダンテ21が培ってきた技術や知識を、圏域の学校・社会教育関係者に伝えるための講習会を実施します。興味のある対象者の方は、広域圏市町村事務組合までお問い合わせください。

### 石倉カゴ調査

日時：8月19日(土) 9:00-13:00 ※設置は7月20日の予定です。

会場：益田川津村橋周辺 ※スタッフ日当あり

昨年からは実施している「石倉カゴ調査」。川に石を詰めた蛇籠を設置し、定期的に引き揚げて中に入っている生き物を調べます。真面目な調査ですが、何が入っているか分からないワクワク感があって楽しいですよ！

### クリーンナップ投げ釣り教室

日時：10月1日(日) 9:00-13:00

会場：中須海岸 参加料：500円(小学3年生以上、大人のみも可)

親子で参加できる投げ釣り教室を行います。「一拾一釣 一捨一逃」がスローガン、海岸をきれいにした後いっぱい釣りましょう。講師には投げ釣り名人「全日本サーフ島根協会」の皆様にご協力いただいておりますので、初めてでも安心です。

## 会員のみなさまへ

イベントが続き、スタッフの確保が多く必要です。お時間があればできるだけ、一つだけでもスタッフとしてお手伝いいただければ幸いです。(日当のでもものもごさいます。)特に「川ガキ講座」、「海ガキ講座」、「石倉カゴ」、「釣り教室」は人手が必要ですのでよろしくお願いいたします。また、お知合い等にイベントの広報もよろしくお願いいたします。

## 地域環境保全へ一歩踏み出す

H29年入会 三保 富士夫



新入会員の三保です。ボランティアで島根県希少野生動植物保護巡視員をしています。おもにレッドデータブックに載っている絶滅危惧種の保護巡視です。その中で島根県希少野生動植物の保護に関する条例で指定された5種(ダイコクコガネ・オニバス・ミナミアカヒレタビラ・カワラハンミョウ・ヒメバイカモ)の内、益田市にはカワラハンミョウ、吉賀町にはヒメバイカモが生息・自生していて、その保護巡視が主な活動です。

私の子供の頃(昭和30年代)は、皆貧しかったが自然は豊かで、どこの小川にもメダカ・ドンコ・ドジョウやゲンゴロウ・タガメが生息していました。経済が成長するとともに自然が失われていき、

先進国となり経済的に豊かになった今では殆んどが絶滅危惧種に指定されています。この危機的な状況を改善していくためには個体の保護活動だけではなく、アンダンテ21が取り組んでいる地域の環境保全活動が重要だと思い、このたび入会しました。微力ではありますが宜しくお願い致します。

## 釣り環境を未来に!

H29年入会 忍谷 登



今年4月に入会した忍谷です。齋藤事務局長の釣り仲間で、アンダンテを勧められ入会しました。寝ても覚めても釣り一筋の釣りキチで、本業も魚屋をしています。益田市は川、海共に釣り場の宝庫です。この素晴らしい釣り環境を保ち、次の世代に伝えていくため活動のお手伝いが出来ればと思っています。よろしくお願いします。

## 古高津川水系について

理事長 渡邊 勝美

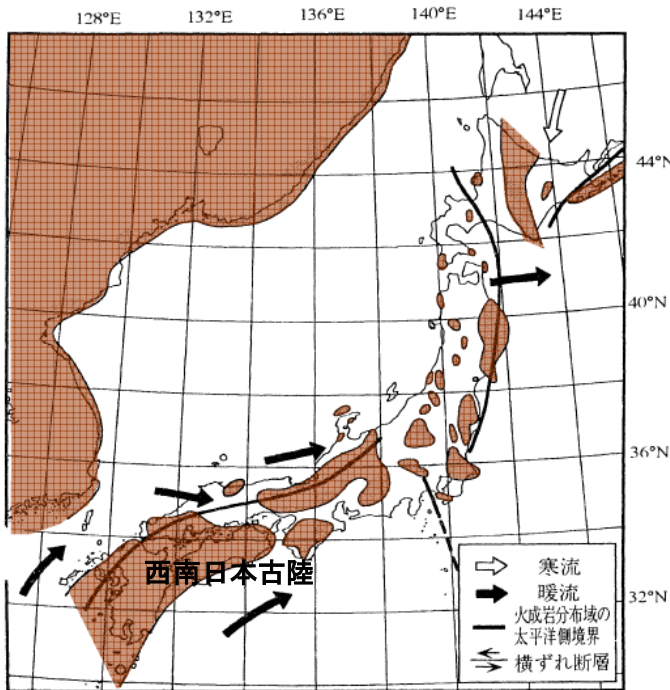


図1 1600万年前の日本列島(小笠原・長沢 1992より引用加筆)

約2000万年前、ユーラシア大陸の東縁部に裂け目が生じた。裂け目は500万年かけて徐々に拡大し、大陸の破片は大小の島となって、東の海上に押しやられ、日本列島の核となった。その中で、最大の島は現在の中国地方西部(江津一庄原一福山以西)・四国・九州・南西諸島を包含する地域であったと推定されており、私はこれを西南日本古陸と呼んでいる。

古高津川は、この西南日本古陸の北部を流れていた。古高津川水系は、大陸時代から9000万年以上の間続いた陸水系であり、大陸時代からの生物相を引き継いできた。2002年に匹見川で新種登録されたインドコは、土井・青山(2005)によると、日本の普通種のドンコよりも古い形質を持っており、韓半島のコウライドンコやセマダラドンコに近い。インドコは、現時点では高津川と匹見川でしか確認されていない(山口県の河川でも発見されたという情報もあるが、未確認)が、錦川や阿武川、佐波川、小瀬川などの古高津川水系の河川にも生息していると考えるのが妥当であろう。1970年に高津川で登録されたインドジョウは西南日本古陸のエリアに広く分布が確認されている。インドジョウの遺伝子変異は、高津川を中心に同心円的に大きくなっており(渡辺 2005)、古高津川水系がその発生源であると考えている。この内、四国に生息するグループは斑紋形状が異なる

ことから“インドジョウ近似種”としたが、2006年にヒナインドジョウとして分離された。おそらく大陸からの分離後の早い時期に、西南日本古陸に脊梁山脈が生じ、水系が南北に大きく分かれて隔離されたものであろう。

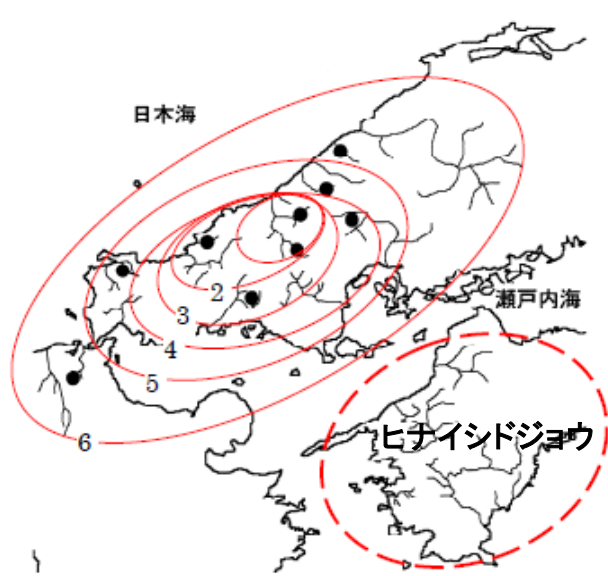


図2 インドジョウの遺伝子変異(渡辺2005に加筆)

2009年に、錦川水系は60~70万年位前までは高津川の中流域であったことが報告(山内・白石)された。それまでは、中国山地と四国山地の隆起と瀬戸内地域の沈降は300万年前くらいに始まって100万年前くらいにはまだ海の侵入はないものの既に瀬戸内低地帯が形成されており、大小の淡水湖が断続していたと考えられていた(市川1966他)。現在でもネットで「瀬戸内海の形成」と検索すると第1図の時代を「第一瀬戸内海」、300万年以降を「第二瀬戸内海」として30年前の説がそのまま掲載されている。山内・白石の報告はそれを覆し、60年から70万年前までは、少なくとも西瀬戸内地域は当時の中国山地よりは標高が高い地域であったことを示すものである。山内・白石の報告を受けて、渡辺(2012)は古高津川水系の範囲を図3のように推定した。しかし、今年になって、この範囲の見直しを迫る論文に遭遇した。「中国地方に分布するオトメマイ属種群の種間関係の検討」(増野和幸, 2015)と題される陸貝の論文である。この中に示される分布図を眺めると「オトメマイV」とされたものの分布が、本州陸域における古高津川水系のエリアに重なる。さらにその範囲は南東に延びて石鎚山に達している。無論、陸貝の分布と水系の分布を直接結び付

ける証拠は何もないが、私は別の調査で、陸貝の分布が地形の歴史要因に大きく規制される例を確認している。また、移動能力の低い陸貝の拡散方法として流木に乗っての移動が強力な手段であることを考えると、分布の長軸方向に水流を想定するのは必ずしも荒唐無稽ではあるまい。更にこの図は、私がかねてより考えていた太田川水系と高津川の関係を示唆するものでもある。

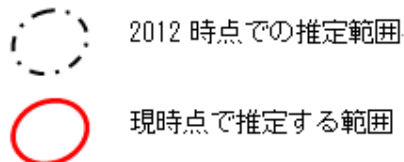


図3 古高津川水系の範囲

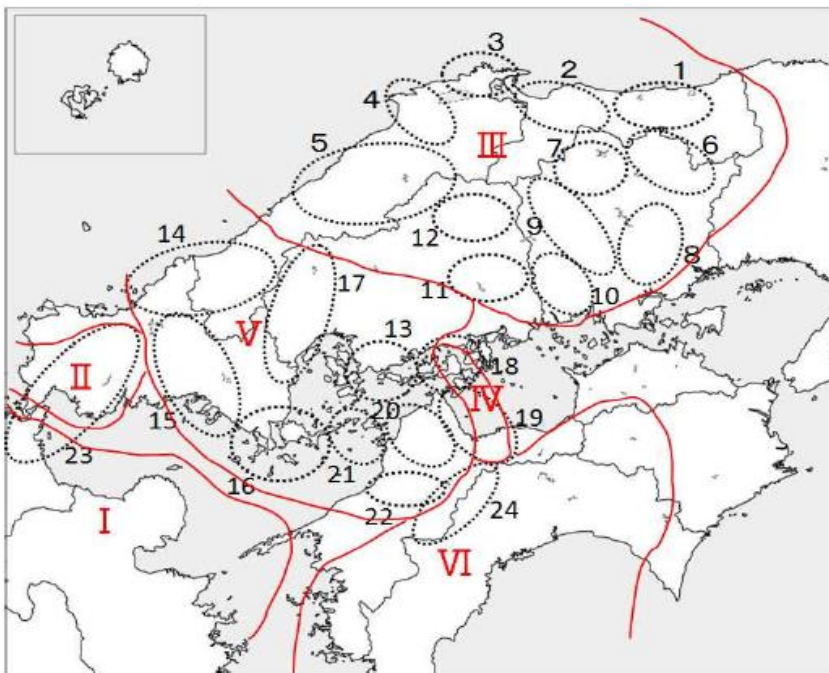


図4 分子系統解析によるオトメマイ属の分布図(増野2015より転載)  
I・II: キュウシュウシロマイマイ、III・IV・V: コウダカシロマイマイ、VI: シロマイマイ

### 新規会員募集中

活動の拡大のため、新規会員や協賛企業を募集しています。会員の皆様におかれましても、お声掛けにご協力ください。会員募集と申し込み用紙の資料は事務所にございます。  
個人年会費 10000円(正会員)、3000円(賛助会員) 企業協賛金 一口50000円

発行元: NPO法人アンダンテ21事務局  
〒690-0032 益田市水分町18-10  
TEL/FAX: 0856-24-8661  
E-mail: andante2100@gmail.com

